

## 不惑を超えての挑戦と飛躍！

第1期OB 井川 倫士

毎度おなじみ1期の問題児、井川です。2年ぶりに近況を徒然に書きます。何とか生きてます（笑）

### ◆政治の道と地域への思い：衰退していく日本の中でも、遅しくいきっていく人材を地域で育てていきたい

県議会議員選挙に落選してから2年が経過（落選日は2022年12月11日。妻の誕生日と同日）。

今年2025年の秋には、銚田市長選。来年の12月には茨城県議会議員選挙がある。

ありがたい？ ことに、市内で誰かに会えば「次はどの選挙に挑戦するの？」と必ず声を掛けて頂く。地方には人材が不足し、相応しい候補者候補すら本当に居ない。それだけを考えても「日本の未来はどうなるのだろうか？」と心配になってしまうのが、政治の世界の実態を垣間見た自分の偽らざる気持ちだ。

2人の子どもも成長し、長男は小3に。小6の長女は第1志望への受検を目前に控え、信じられない位に勉強している。とは言え、都会のそれとは次元が違うが、やはり受験の功罪を考えざるを得ない。

塾経営を本格的に始めて1年半が過ぎ、生徒は幸いなことに36名まで増えた。県内の個人塾としては最大規模のようだ。慶應卒、元市議会議員という肩書、そして地元の同級生たちの支援が大きい。

「大人になる」ということは、柵とは無縁では居られない。それでも、そこからなるべく自分を遠ざけようとして来たが、寧ろそれらに助けられる日々だというのも、大人になりきれない私には皮肉だ。

だからこそ、簡単に物事を投げ出すことは難しい。塾を続ける必要性、県議選で10,299票もの得票を頂いた政治家としての責任、家族への義務との狭間で、自分の気持ちがどこに着地するのか判然としない。

不惑からは程遠い自分にとって、2児の父である自覚も当然に薄い。しかしなぜか、子ども達はパパを好きでいてくれる。一緒に寝てくれるし、塾にもなぜか来たがる。本当に不思議だ。

2人の子どもの父親となり、ようやく「人と人とは違うもの」という当たり前の事実を実感を持った。

故に、人は助け合って生きているのかも知れない。

45歳を迎え、不惑を超えて、挑戦と飛躍の年にしたい。妻への感謝も忘れずに



2023年7月開始の塾のロゴ



女子は1人しか落ちなかった受験での喜びの姿